

## 令和6年度第2回成田市地域包括支援センター等運営協議会会議録概要

### 1 開催日時

令和7年3月21日（金）午前10時から午前11時30分まで

### 2 開催場所

成田市役所 6階 中会議室

### 3 出席者

（委員）

山下会長、長島委員、吉田委員、塚田委員、栗田委員、沓掛委員  
以上6人

（欠席：玄道副会長、檜垣委員、石井委員、安部委員）

（事務局）

堀越福祉部長

森田介護保険課長、青野係長、寺嶋主査、加瀬主査

渋沢高齢者福祉課長、檜垣係長、成尾係長

ニュータウン地域包括支援センター（北村管理者）

遠山地域包括支援センター（釜屋管理者）

成田・中郷地域包括支援センター（坂上主任介護支援専門員）

久住・下総地域包括支援センター（岩澤管理者）

公津地域包括支援センター（木下管理者）

### 4 会議次第

1 開 会

2 会長挨拶

3 福祉部長挨拶

4 議 題

（1）地域包括支援センターの運営等に関する事

①令和6年度地域包括支援センターの評価について

②令和7年度地域包括支援センター事業計画について

③介護予防支援業務等の一部委託について

（2）地域密着型サービスの運営等に関する事

（3）その他

5 閉 会

### 5 議事（要旨）

（1）地域包括支援センターの運営等に関する事

○事務局

令和6年度地域包括支援センターの評価及び介護予防支援業務等の一部委託について、別添資料のとおり説明。

○各センター職員

令和7年度地域包括支援センター事業計画について、別添資料のとおり説明。

主な質疑は次のとおり。

●吉田委員

地域包括支援センターの3職種1人当たり高齢者数を聞くと、すごく大変なのではないかと思ってしまう。これだけの高齢者を抱えている現場は、実際どういった状況なのか。

○ニュータウン地域包括支援センター管理者

ニュータウン地区、八生・豊住地区を担当しているが、うちのセンターは本当に相談件数が多く、相談をこなしているだけで大変である。他に色々な活動をしなればいけないというのは分かっているが、相談はいつ来るか分からないため、必ず留守番を置くための工夫をしなければならず、やはり相談対応をしているだけで精一杯なところはある。

●吉田委員

数字から見てもすごく大変な仕事をしていると思う。大栄地区においても、相談件数が昨年度より増加していて、虐待対応などもある。虐待ケースの対応は本当に大変だと思う。介護や地域包括支援センターの業務に携わる人が減っている中で、相談件数が増えていくと、地域の人たちも今後大変な状況になっていくのではないかと実感を持っている。大栄地区の状況はどうなっているか。

○久住・下総地域包括支援センター管理者

吉田委員が言ったように、千何人を地域包括支援センターの職員1人だけで補おうとすると、当然体が足りず、はっきり言って難しい。その上で、どうすればより多くの地域の皆様に地域包括支援センターを知ってもらえるか、困ったときに地域包括支援センターに相談できるというのを、包括だけで行うのは難しいので、大変申し訳ないが、民生委員の皆様を中心として周知を図りつつ、連携をとりながら、一緒に考えていただけるような体制をつくるということを意識している。やはり職員だけで抱え込むと燃え尽きてしまうので、一緒に考えていただける仲間というか、そういった考え方でうちのセンターはやっている。先ほどニュータウン地域包括支援センターの管理者が言っていたように、実際本当に大変で、私もプライベートでも仕事のことが頭をよぎることはあるが、一人で抱えているわけではなく、地域の皆様と一緒にこの地域をつくっていくという空気感を持ちながらやっている。

●吉田委員

その民生委員も高齢化してしまっていて、選出できない地域もある。民生委員が介

護保険を使ってデイサービスに通いながらやっているという状況のところもある。コロナ禍の影響もあり、民生委員もあまり地域を歩かなくなったりしている。大栄地区は家族で同居している方も多いので、家族がケアをしているのでそこで助かっているところもあるが、これから先、本当に高齢者ばかりになってしまえば、地域包括支援センターを頼るしかなくなってしまう。そう考えると、そうなる前に運動をしたり、出掛けたり、コミュニケーションをとったりということが大事だと思うので、そういったところを地域包括支援センターが支援してくれることは本当にありがたいと思っている。

#### ○事務局

令和6年度ニュータウン地域は相談件数が多く、増加しているということで、ケアマネジャーを1名増員させていただいた。年度の途中だったため、11月から配置となっているが、職員を増やして対応している。また、すべての地域包括支援センターにおいて、条例上の配置基準は満たしている。評価項目だと1人当たり高齢者数の状況が1,500人以上だと「1」がついてしまうが、適切な配置はできている。ただ、やはり相談件数の多いニュータウンについては、基準外ではあるが、ケアマネジャー1名を増員した。人員については、今後も適切に対応していきたい。

#### ●長島委員

ケアマネジャーが増員したということで、具体的な話が聞けて安心した。ただ、評価項目について、数値で見れば「1」と「5」であり、大きな違いがある。「1」でも、本当に地域包括支援センターは努力しているなど感じているので、成田市には頑張っていたらいいなと思っている。

健康寿命を延ばすために、私は百歳体操を4年ほどやっているが、参加されている方が本当に健康を維持できている。ただ、来れない方、来なくなってしまった方について、葛藤がある。無理やりはだめ、ゆったりとお待ちするというかたちで、おかげさまで人数も減らずにやっている。継続は力なり、というのを実感している。そこで、百歳体操に対する支援費をもう少し出していただけはないか。というのも、百歳体操終了後に、ミーティングのようなことを行うが、そこで笑いが出たり、いい関係性をつくることができたりする。90歳近い方が体力を維持できているのは、そういった点もあるのではないかと思う。地道な努力がいかに大事かということでもある。

また、成田市内に限らず、どこの地域に行っても、店に行かないと買い物ができないという状況はあり、移動スーパーはとても大事で、絶対に移動スーパーをつぶしてはいけないと感じている。もう少し成田市で色々やっていただけたらと思う。

#### ○事務局

百歳体操の居場所づくり補助金というのは、立ち上げの初年度だけ補助金が出るようになっているが、令和8年度から地域住民主体のサービスBというものを考えている。そうすると、初年度だけではなく、2年度以降も運営補助金といったかたちで対

応できると思う。ただ、今はサークル活動的にやっている百歳体操がそこまでサービスBに移行できるか、住民の考え方もあるので未知数ではあるが、そういったことで高齢者の居場所づくりを推進していこうと考えている。

買い物支援、移動スーパーについては、ナリタヤのとくし丸とカスミで計3台巡回しているが、カスミは3/24から販売場所の見直しを行った。生活支援コーディネーターを中心にやっているので、今後もここに来て欲しいなどの要望があれば、特に日にちなどは決めないで、随時受付していきたいと考えている。

## ●山下会長

委員からも話があった評価について、適切・中立性のある運営というのは、この評価結果に測られているものであることは理解しているが、これだけのたくさんの仕事をやって大丈夫なのか、職員の方々の大変さを心配する声もある。介護予防や健康、複合的な課題など、ほぼ確実にアセスメント、キャッチされているが、それが分かったところで実際できるのか、次年度の事業計画を聞くと、どのあたりをどのように進めていくのか少し心配というのが委員二人の意見である。市の評価と全国統一評価、それぞれしっかりあるが、この運営協議会では今までこういった評価ができる前から、そういったものを意識してやってきている。毎年資料も精度をあげて非常に見やすくなってきているので、それは順調に進んでいると思うが、懸念とするとこんなにやりすぎて、実は本当にやるべき仕事にたどり着いていないのではないかと、それに見合うだけの補助金が出ているのか、そのあたりのことを委員は心配していると思う。実際やっていけるのか、何とかやっていけているのか、やっていけないのか、その辺りの実情はどうなのか。委託する側の行政も少し考えないと、このままやっていくと民間の業者を苦しめてしまうことになるのではないかと。なんとかやってくださいよ、ではなく、本当に必要な内容は何かということだが、そうすると令和7年度の担当する各圏域の課題と重点目標に関連性があるか、という点を次はチェックしたくなる。各包括の課題がこのような内容であると、市も受け止めているはずで、重点目標についても、市もそのとおりだ、一緒にやっていこうとになって、それに関する措置などがしっかりないと来年もう一年頑張ってみようとして地域包括支援センターも思えないのではないかと。かなり複合的でセンターだけでは解決できないネットワーク型の支援と、相談を地域的に受け付ける、その手前の民生委員などと連携し、地域の潜在的な課題を発見するというレベルの話と、権利擁護や虐待などといった緊急会議もしっかりするといった話と、各介護事業者の相談等をサポートするなど、それらを本気でやるとなるとすごく大変な話のはずなので、本当に大丈夫かという意図での委員の質問だったと思う。ただ、市自体の財源も全国的に非常に厳しいはずであるし、財源を得るのもそう簡単なことではないと思う。先ほどのニュータウン包括の相談件数が多かったという話を踏まえて、ケアマネジャーを増員するといったニュートラルな対応を年度の途中でもできるようにしているとか、移動スーパーとか、そういった資源等については、市のそういった産業の関係とどういったチャンネルをつくるのか、圏域ごとの課題が圏域を超えた課題となっていると思われるので、成田市全体の地域ケアについてどういった対応をしていくのかという説明を聞きながら、掘り進めないで圏域

ごとに投げた評価だけだと少し弱くなってしまうのかと思う。

#### ○事務局

委託料に反映されているのかという話について、第9期介護保険事業計画が令和6年度からはじまっており、国の方でも介護保険の報酬改定などがあり、それに伴って若干ではあるが地域包括支援センターの方も値上げさせていただいた。また、重層的な問題を抱えている地域の皆様の対応ということで、重層的支援についての連絡会というのを福祉部内で設けており、地域包括支援センターの方にも参加していただき、事例の研究などを行っている。

地域包括支援センターのみで解決できる問題ばかりではないと思うので、障がい者福祉課だったり、高齢者福祉課だったり、子育て関係の部署であったり、そういった関係課も一緒になって考えていけるような仕組みを考えている。

#### ○久住・下総地域包括支援センター管理者

現場からの意見として、圏域ごとの違いというか、たとえばうちの包括で言うと、田舎の方で様々な背景があり、取り組みが違う中で、成田市でこういう方向性を目指そうと、市街地と田舎の方とでもう少し小分けになったらいいのかなといった思いもあったりするが、そういったものを大前提として、話しやすい関係性が大事であると思う。委託だからとかそういったことは関係なく、福祉部の各課のみなさん話を聞いてくれるので、そういったところは精神的な面で本当にやりやすいと感じている。どのようにして地域づくりを進めるかについては、生活支援コーディネーターが包括内に配置されているという点は、非常にやりやすくやってこれたと思う。100%を目指しているか、そういった基準で求められてしまうとおそらくどこの包括も、胸を張って言えるかという残念ながら難しいと思うが、少なくとも前に進む、成田市の地域づくりが進んでいる方向性と考えたときに、各包括の管理者の皆様と話をすることで包括ごとに一つずつ、一つずつ、進めているんだなと感じている。大変ではないという嘘になってしまうが、大変ではない仕事はないと思っているし、そこはむしろやりがいのある仕事をさせていただいていると思いつつ、みんなで考えながらやっていけたらと個人的には思っている。

#### ●山下会長

自己評価または市の評価が「5」になっているところは、それが一応MAXということに外からは見える。これは評価をする自治体によっても様々だが、福祉サービスのケアの評価は実はMAX評価にしないで真ん中よりやや上ぐらいの評価をスタンダードな評価としている。さらに質の高い取り組みをしていこうという位置づけをしながら福祉の財源と両輪で確保していくという流れがあるので、仕事をするためにはそれなりの財源、補助型の基盤がなければできないのは確かで、本当に今やれているならそれでいいが、そうじゃないのではないかとといった意見があった、というのが今回の特徴なので、委員からそういった発言があったというのを受け止めるというのが今回の評価の内容から見た意見だったかと思う。私たちは財源に対して何か言えるよ

うな立場ではないが、かなり内容が濃くつくられているので、頑張ってくださいという気持ちを込めながらのコメントだったと受け止めていただきたいと思います。

来年度以降、またこういった評価をしてもらうことになると思うが、たとえば来年度の事業計画などで「介護予防ケアマネジメント業務」から「その他」といった項目ごとに計画を書くようにしているが、これは委託内容がそのようになっていて、それが慣れてきていてそれが表示されているのならいいが、実はこのマネジメント業務と色々な仕事は絡みあっているものであり、絡み合っているのにわざわざ業務で分けて書いていくのは市民から見て分かりにくいのではないか。一体地域包括支援センターは何をしてくれるのか、という話をもっと分かりやすく書いていくことによって、委員も「分からないんですが…」と前置きせずに発言してくれるようになるのではないか。そういうことを意識しながら、市民にも分かりやすいように、事業計画も委託契約に照らしてつくるのは委託関係としての職務であり、市民が地域包括支援センターのすること、というような、分かりやすく、介護予防と、介護と、医療と、住まいと、生活支援と、というものを意識しながら、虐待などは書かなければいけないし、認知症と書いた方が分かりやすいかもしれないし、包括的・継続的ケアマネジメントなどと言っても市民は分からないので、市内のケアマネジャーとの協働とか、連携体制とか、意識を変えた評価に取り組んで、成田市らしいものをつくっていただきたいと思います。

## (2) 地域密着型サービスの運営等に関すること

地域密着型サービスの運営等に関することについて、別添資料のとおり説明。

### ●塚田委員

質問ではないが、コメントだけ。看護小規模多機能がはじまったと思うが、こういったところは普通の小規模多機能と違って、たとえば医療的な要素が高い人が行けるようなところであり、さらにここはちょうど富里との際にあるところでもあるので、地域密着型ではあるが、少しフレキシブルに、専門職が高いところに関しては、そういった対応をしていただければ、利用する方は助かるのではないかと思う。

### ○事務局

第9期介護保険事業計画に基づいて、看護小規模多機能型の介護住宅の募集をしており、もう1施設整備予定である。

## (3) その他

介護保険事業の進捗状況について、別添資料のとおり説明。

### ●吉田委員

国際医療福祉大学の公津の杜のキャンパスに通所型に5名参加、12月からは10名参加となっているが、この方たちはどのようにして通っているのか。自分たちで通っているのか、それとも送迎があるのか。

○事務局

通常のデイサービスなどであれば送迎があるが、大学なので送迎サービスがない。対象が要支援1・2または基本チェックリストで該当になった方なので、自力で行ける方が対象になっている。

●吉田委員

あおぞら会というものがあると思うのですが、あおぞら会もすごくお金がなく、社協から寄付をもらっている。私たちも寄付を出していて、市からもらったお金をまたあおぞら会に寄付するという運営をしているので、あおぞら会の方にも支援をお願いしたい。

○事務局

あおぞら会は市の直営のため、若干ではあるが、消耗品費と送迎ボランティアの車の保険代を市の方で負担している。

●吉田委員

もう少し欲しいなというところ。

●山下会長

何が足りないのか。

●吉田委員

皆様集まったらお話もしたいとか、そういうときに何かちょっとあったらいいなと言われましたので、地区社協から少し援助したという経緯があるが、中には市からもらえという人もいます。そのため、もう少し多かっただらいいなと思う。

○事務局

市の会計でなかなか食糧費は出せない。そのため、ちょっと欲しいというのがお菓子とかそういったものであれば、申し訳ないができない。

●吉田委員

みんなでお花を活けた際にもう少し豪華にしたいとか、そういったものはどうか。

○事務局

そういった材料費であれば消耗品費が若干あると思う。その辺りでもし相談に乗れることがあれば、というところ。

●塚田委員

地域資源情報把握システムについて、予防事業のところをどれだけ徹底できるか、

有償ボランティアの募集をそこからできるのかというところまで考えているのかというところと、空き情報のサービスなど、医師会としては、成田市独自でやってほしいというところと、介護事業者の負担にならないようにしてほしい、介護保険課が1人でやるということだったが大丈夫なのかという意見などがあった。

#### ○事務局

介護事業者の負担にならないようにということで、システムの事業者は新年度になってから募集するため、選定された事業者によっても変わってきてしまうかもしれないが、簡単なアンケートで、たとえば空き情報なども数字を入れてくれたら入力作業はシステムの事業者の方でやってくれるような、メールまたはFAXで確認し、あまり負担にならないでできるような回答方法で、入力はシステムの事業者と市の方でやるということで考えている。介護保険課が1人でということについては、介護保険特別会計の事業としてやるが、高齢者福祉課であったり、地域医療政策課であったり、保険年金課など、他の課とも連携しながら進めていきたいと考えている。

#### ●山下会長

システムについては、ニーズとしては賛成だが、そう簡単には活用されないと思っている。地域包括支援センターが受けている相談内容について、介護保険課主幹課であれば着目していただいて、ダメ元ではあるが、AIによって地域包括支援センターの相談業務を少し緩和できるとか、少し話を聞いてほしいとか、寂しいとか、一人で不安とか、そういう言葉をここに入力したら何か言葉が返ってくる、双方向性のDXのような、そういった構成が可能なのかどうかも検討していただければいいかと思う。

〈議事終了〉

#### 6 傍聴

0人

#### 7 次回開催日時（予定）

令和7年8月